

日高村教育委員会の自己点検・評価シート

評価……A:よい B:概ねよい C:やや悪い D:悪い No.1

項目	事業	事業の概要	評価	自己評価コメント	外部識者コメント
教育委員会の活動	教育委員会の開催	H22.4/1 4/28 5/19 6/22 7/27 9/22 10/15 12/19 H23.1/31 3/4 3/18 合計11回開催	B	定例会は、ほぼ毎月開催することができた。 会議の公開については、これまで住民が会議を傍聴した事例がなく、会議はすべて平日の日中に開催し、土日・祝祭日開催等、傍聴者に配慮した対応は行わなかった。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議の公開に関しては、これまで住民が傍聴した事例もなく、今まで通りの対応で良いのではないかと。 ・ 定期的な教育委員会はこの市町村でも行われていると思うが、校長と絡めて各学校に月別に訪問して実施するのも、各学校の状況が分かり面白いのではないかとと思われる。(内容による) ・ 日高村教育委員会行政方針ののっとり、心身ともに健康で創意と自主性に富み、人間性豊かな人材の育成をめざす活動がなされている。 ・ 急速に変化、進展する社会に伴う教育諸情勢の中で「子どもたちが主人公」を合言葉に、各委員が積極的に研修へ出席され、将来を担う子どもたちの将来像確立のため 見識を深めている。 ・ 学校行事等に積極的に参加され現場の実情を把握し情報交換を行うことは有意義なことである。また、地域に開かれた学校として、住民との交流を通じて委員として、普段は 聞き見慣れない情勢、有様を得ることも大切であり、そういう場を設けていくべきである。 ・ 学校訪問に関しては、その趣旨・目的を学校側に明確に示し、管理職だけでなく全教職員に理解を得ておくことが、より内容の充実が図られるのではないかと考える。
	教育委員会での議事	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育行政方針 ・年間行事計画 ・ 教職員人事異動 ・教職員の服務 ・ 教科用図書採択 ・規則の制定、改廃 ・ 施設整備 ・教育の現状について 	B	定例会議においては、その都度、議事について適切な審議が行われ、教育委員会として統一した見解をまとめることができた。 特に、毎月開催される校長会の報告をもとに、学校現場での児童生徒、教職員の現状や課題について、毎回、活発な論議が行われた。	
	研修活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高知県市町村教育委員会連合会(2回) ・ 高岡地区市町村教育委員会連合会(5回) ・ 連携教育日高の会 ・ 日高村教職員人権教育実践交流会 ・ 「部落差別をなくする運動強調句間講演会」 ・ 「日高村人権教育研究大会」 	A	村内外で開催される各種研修会等には、ほぼ全員が出席した。研修への委員出席率は他の市町村に比して高く、国・県・市町村の教育の現状や人権問題等を積極的に学習することにより、教育委員としての見識を深めることができた。	
	学校訪問	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3校学校訪問(6/4) ・ 日高中体育祭(9/12) ・ 日下小運動会(10/2) ・ 能津小運動会(10/3) ・ 日高中文化祭(10/9) ・ 日高中卒業式(3/15) ・ 日下小卒業式(3/23) ・ 能津小卒業式(3/24) 	B	毎年6月に行われている3校学校訪問においては、授業を参観するとともに、学校の現状、学校経営方針等について、有意義な情報交換を行うことができた。 また、校内研究授業や各種学校行事等の際にも、できる限り学校を訪問して、教職員や児童生徒等の状況把握を行った。	
学校教育	保・小・中連携教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回全体会、分科会(4/28) ・ 第2回分科会(6/16) ・ 第2回全体会、第3回分科会(8/4) ・ 第4回分科会(10/6) ・ 第3回全体会、第5回分科会(1/19) 	B	新たに「教科・学習」、「総合」、「健康・生活」の3部会での活動となった。 それぞれの部会において、目標に沿った具体的な取り組みが行われた。また、全体会に講師を招聘しての講話、各校・園での公開授業等を通して互いに学びあい、9年間を見通した連携を深めることができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9年間を見通した連携教育は、それぞれの発達に見合ったそれぞれの役割を考え、お互いが学びあう上で有意義な活動である。 ・ 保・小・中連携教育では、目標・課題をお互いに共有するには難しい面があると思うが、部会ごとに9年間を見通した具体的な実践が継続して行われており、すばらしく思う。 ・ 中学校の先生方が、特に小学校の先生方のきめ細かな指導等に謙虚に学ぼうとする姿勢が持てるかどうかが一番のポイントである。 ・ 学力の定着・向上は、学校教育の最大の使命である。そのためには研修を深め、教職員の指導力向上が欠かせない。継続したすばらしい取り組みがなされていることに敬意を表したい。 ・ 指定により学校全体としての学力アップはもとよりであるが教師としての指導力、意識改革を求めながら保護者も含めた地域全体の学力アップの熱意が盛り上がるよう期待する。 ・ 学力の定着・向上には、保護者の家庭学習に対する関心を高める何らかの手立てを考へることもや、学力を言う以前に先ず子どもたちに基本的な生活習慣(人の話は黙って静かに相手の目を見て聞くなど)を身につけさせることが最も肝心なことであると考え。(何といっても家庭が原点である) ・ 児童生徒を点数だけで評価してしまうことはできないが基礎学力の定着度が上がっている取組みについては、努力の成果がみられ熱意のさらなる継続を望む。 ・ 支援員の配置は、日高村の学力向上に対する並々ならぬ熱意の表れと評価し、本事業の充実継続を強く望む。
	学力向上推進村指定事業	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日下小学校を指定校として実施 ・ 國學院大學栃木短期大学 正木孝昌教授招聘(8/4) ・ 元横内小校長 池知環水氏招聘(5/12、6/9 10/7、10/28) ・ 元池川小校長 岡村昭夫氏招聘(6/23、11/24) 	B	指定校となった日下小学校が、算数教育における全国的な権威である正木孝昌教授を招聘し、「授業力向上のために」と題しての講演会を3校全教職員を対象に実施することができた。 また、県内の算数教育のすぐれた指導者を招聘して校内研を行い、授業力向上を図ることができた。	
	全国学力学習状況調査授業評価システム・到達度把握推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第3回全国学力学習状況調査の実施(4/20) ・ 標準学力検査を小・中で2回実施(4月、2月) ・ Q-U 楽しい学校生活を送るためのアンケートを小中学校で実施 	B	これまで3回実施した全国学力学習状況調査やCR T、Q-Uの実施による、学力や集団状況の分析結果をもとに、各校において、新たに学力向上のための学校改善プランを作成した。そして、前年の成果と課題をもとにPDCAサイクルを活用して、より具体的な学力向上対策を行った。	
	学力総合ステップアップ事業	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高知県地域教育振興支援事業を導入による「学力総合ステップアップ事業」を実施 ・ 学力向上支援員3名配置 ・ 校内研講師招聘延19回 ・ 先進校視察研修7名 ○ 村単独学力向上支援員3名配置 	B	県の新規事業を導入して、各校に学力向上支援員を配置し、算数・数学の学習内容の確実な定着を図ることができた。また、名城大学 曾山准教授を招聘して学級経営や人間関係づくりについての研修を行うなど、県内外から講師を招聘して、充実した校内研を実施することができた。	

項目		事業	事業の概要	評価	自己評価コメント	外部識者コメント
学	国際理解教育の推進	外国語指導助手の招致	○ 語学指導などを行う外国青年招致事業 ALT(外国語指導助手)1名、アメリカ人、2年目	B	再契約を結び、2年目となった外国語指導助手は、熱心に指導案や教材を研究するなど、職務に取り組む姿勢もすぐれている。 また、堪能な日本語を活かして地域住民とも積極的に交流を行い、村の英語教育、国際理解教育の推進だけでなく、国際交流にも貢献した。	<ul style="list-style-type: none"> 得難い外国語指導助手に恵まれて、再契約の運びとなったことは日高村にとって大変幸せなことである。子どもたちがこの幸運を生かして英語会話が向上し、国際感覚を身に着ける貴重な時間としてほしい。 グローバル社会になったとはいえ、児童・生徒にとって生の英語に触れられることは、そう多くはなく何物にもかえがたいものである。積極的に活用されたい。 質の高い授業・充実した成果を挙げるためには、何よりも担当教員とALTとの事前の打ち合わせが欠かせない。十分な時間確保をする必要がある。
	就学支援対策	奨学金貸付事業	○ 奨学金選考委員会開催(4/28) ・ 高等学校1名×180千円= 180千円 ・ 専修大学2名×360千円= 360千円 ・ 短期大学1名×600千円= 600千円 計 4名 1,140千円	B	義務教育終了後、勉学する意欲と能力を持ちながら、経済的な理由により高等学校以上への修学が困難な者に対して、貸し付けを行う事業である。 奨学生選考委員会審査により、申請者全員に奨学金の貸し付けを行うことを決定した。	<ul style="list-style-type: none"> 現在の社会の状況から、どうしても経済的に厳しい家庭が多くなってきている。奨学金貸付事業は財政的に厳しいとは思いますが継続支援をお願いしたい。
		要保護及び準要保護児童生徒就学援助費	○ 就学援助費の内訳 ・ 日下小学校 39名=1,789,579円 ・ 能津小学校 4名= 279,990円 ・ 日高中学校 25名=2,074,839円 計 68名=4,144,408円	B	経済的な理由により、就学困難な児童・生徒に対して、義務教育の機会均等を図る助成制度である。 依然厳しい経済状況下、セーフティネットとして重要な制度であり、対象児童・生徒に対して適切な支援を行っていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> 勉学する意欲と能力を持つ者にとって就学援助費は、今日の厳しい社会状況の中では必要不可欠な制度である。子どもたちの勉学意欲を損なわないため、義務教育の機会均等の面からも、事業の健全な継続と、より適切な支援が行われるような体制づくりを図っていくよう願う。
	学校・地域の連携	「地域と学校のコラボレーション」の開催	○ 高知県地域教育振興支援事業を導入し「学校と地域のコラボレーション」を実施 ・ コラボレーション協議会の開催 ・ 村民大学の実施 ・ 「生涯学習フェスタ」の開催 ・ 先進地視察、講師招聘によるマンパワー養成	B	地域と学校が連携して、地域全体で学びを支える教育的な風土づくりを進めることを目的に、県の新規事業を活用して、新たな取り組みを実施した。 地域、学校、関係機関により組織された協議会を定期的に開催し、策定された年間計画をもとに、村民に学びの場や学習成果の発表の場を提供し、教育的な風土づくりを進めることができた。	<ul style="list-style-type: none"> コラボレーションは年々実のあるものになってきており、地域と学校の連携度が上がってきているように見られる。日高村の取り組みが教育向上に大きく応えられていくように期待する。 学校と家庭・地域が連携を密にし、お互いを理解し合うことは、児童・生徒理解には不可欠なことのできない要素であり、すばらしい取り組みをされていると思うので、更に継続し充実発展させていってほしい。
教育	児童生徒の健全育成	スクールソーシャルワーカーの配置	児童生徒の問題行動の背景にある学校、家庭、地域の実態を把握して、関係機関との連携を図る、スクール・ソーシャルワーカー(SSW)を引き続き配置した。	B	児童虐待や不登校対応等、各校が抱えるケースが増える中、SSWの役割はますます重要になってきている。 3年目となったSSWは、常にカウンセリングマインドを持って困難ケースに対応し、学校、家庭、関係機関からの信頼も厚く、課題解決に向けた適切な対応を行うことができた。	<ul style="list-style-type: none"> いじめ、不登校、虐待の要因は別個のものではなく、問題解決には学校、家庭、地域が連携することは不可欠である。信頼の厚い方の配置がされ、心の扉が開かれている活動とご苦労に感謝するところである。
		地域ぐるみの学校安全推進事業	・ スクールガード・リーダーによる巡回指導(月に10日程度) ・ スクールガード養成講習会の実施(10/27)	A	スクールガード・リーダーの定期的な巡回指導とともに、子ども支援ボランティアであるスクールガード25名の見守り活動により、地域全体で児童生徒の安全・安心を守る取り組みが、しっかりと定着してきた。	<ul style="list-style-type: none"> いじめ・不登校や児童虐待は、今の時代を反映していて、親の無関心や家庭環境等それぞれケースごとに違っていると考えられる。事象だけに感わされず、その子の置かれている背景にまで細かな神経をそそぐ必要がある。 ひとつの問題が一個人・一教師の問題で済まされないよう、校長を中心として学校全体で問題を共有し自分のこととして問題解決に向け一丸となって取り組むことが最も重要と考える。 登下校時の交通事故、不審者の出没等、核家族化した今日、家庭を離れた時間帯における子どもたちへの保護者の心配、不安は大きなものがある。スクールガード・リーダーの存在は、安全・安心の環境づくりとして非常に心強く思う。
	特別支援教育の推進	就学指導委員会の開催	・ 第1回就学指導委員会(10/14)	B	特別な支援を要する児童生徒に対して適切な就学指導や教育的措置を実施するため、委員会を構成している学校及び関係機関が、できる限り情報の共有に努め、連携を深める事ができた。	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちを取り巻く環境が一段と厳しくなっている現在において、「地域の子どもは、地域で見守り育てる」という気運づくりと実践活動が貴村では定着しており、すばらしく高く評価したい。更に青少年の非行防止や健全育成に力を注いでいただきたい。
	特別支援教育支援員(村単学力向上支援員)の配置	各小中学校において、発達障害等の課題を抱えながらも、特別支援学級に入ることができない児童・生徒を支援するため、各校に非常勤講師を1名ずつ配置した。	B	各校において、発達障害を持つ子どもや、気になる子どもが増え、学級経営に支障をきたす事案が発生している。各校に支援員を配置したことにより、個々のケースへの対応と、学習支援を行うことができた。	<ul style="list-style-type: none"> 就学指導委員会では、児童生徒が最も適切な環境で教育が受けられるよう、愛情と思いやりの心を持って指導されることを望む。 個人情報との絡みもあるが、可能な限りの情報共有を図り、特別支援教育に対する理解・啓発及び適正な就学指導に取り組んでいただきたい。 特別支援教育支援員として非常勤講師の配置は有り難く心強い。良い成果が得られているので、引き続ききめ細かな配慮をお願いしたい。 子どもへの指導と併せて、保護者の思いを受け止め、精神的な支援を適切に行うことが重要だと考える。 	

項目		事業	事業の概要	評価	自己評価コメント	外部識者コメント
学 校 教 育	施設維持修繕	能津小学校遊具整備 工事	契約日 H22.7.8 契約額 4,725,000円 着手 H22.7.9 完了 H23.2.28 請負業者 (株)庭園センター	A	遊具の老朽化や定期点検の未実施による事故が各地で発生している。 そうした中、国の緊急経済対策交付金を活用して、各小学校の危険性のある遊具を撤去し、新たに整備することができた。	<ul style="list-style-type: none"> 安全な教育環境の整備は児童生徒が充実した学校生活を送る上で最も大切である。今回の交付金の活用で新たに整備できたことは大変良かった。今後においては、遊具の摩耗度を監視していきながら、日常の点検と補修を充分行う等、きめ細かな配りを願うと共に、児童生徒への安全教育の実施により積極的に取り組んでほしい。 学校施設については児童・生徒等の安全確保が第一であることはいうまでもないが、同時に地域住民の応急避難場所(3月11日の東日本大震災の教訓から)としての役割もあることから、耐震性能等、質的整備に尚一層の万全を期していただきたい。 能津小学校は地域の方々にとっては並々ならぬ思い入れがあり、地域に完成間近のエコサイクルセンター建設に係る県の地域振興交付金を受けて工事を実施し、耐震化が完了したことは大変喜ばしいことである。 多くの方々の強い要望と関係機関の特段の尽力により、日高中学校校舎建築の運びとなったことは、地域住民を始めとして、これからの日高村を背負って子どもたちにとってはこの上ない喜びである。手摺や扉など生徒の手に触れる部分には仁淀川流域産のスギ、ヒノキをふんだんに使用しており、大変ぬくもりが感じられる校舎である。 かねてからの懸案であった日高中学校の改築が実現し、それも太陽光パネルを設置するなど自然エネルギーを取り入れたすばらしい建物が完成した。在職したことのある者にとってこれほど喜ばしいことはない。これまでのご苦労に心より敬意を表したい。 今後は、グラウンド等の付随する施設・設備の環境整備と並行して、特に内容の充実・向上に尽力してほしい。 (「子どもたちにとって最大の教育環境は、教師自身である」ということを肝に銘じてほしい。) 学校給食共同調理場は、食の安全・安心を確保しなければならず、命にかかわる重要な施設であり、できるだけ早急に最新の施設建設を希望する。 地産・地消については、地域の生産者の顔が見えると同時に、子どもたちが地域を知ることにつながると思うので、是非とも積極的に推進してもらいたい。 地域の公園を整備することをきっかけとして、加茂地区では数カ所で幾つもの輪が広がっている。地域の高齢者にとっては、ボランティアへの参加で生きがいになっており、環境整備も兼ねた参加意義の高まりに期待する。 総合的なイベントとしては大変意義深いものであった。特にパネルディスカッションにおいては、村の将来について生の声が聞けたのはよかった。ただ、せっかくだから、もう少し年齢層の幅を広げて、高齢者の経験談も入れてのディスカッションを提案する。
		日下小学校遊具整備 工事	契約日 H22.12.9 契約額 7,432,950円 着手 H22.12.10 完了 H23.2.28 請負業者 (株)庭園センター	A		
	施設対震対策	能津小学校校舎・体育館 耐震補強・大規模改造工 事	契約日 H22.7.21 契約額 9,555,000円 着手 H22.7.24 完了 H23.2.16 請負業者 開洋・中野建設工事共同企業体	A	平成21年度に実施した校舎及び体育館の耐震補強・大規模改造設計をもとに、エコサイクルセンター建設に係る県の地域振興対策交付金を受けて工事を実施し、耐震化が完了した。	
		日高中学校校舎・体育館 新築工事設計管理委託 業務	契約日 H22.2.15 契約額 20,277,600円 着手 H22.2.16 完了 H22.12.17 委託業者 (株)山本設計	A	危険建物に認定され、移転改築することになった校舎及び体育館の工事の設計監理委託業務が、初めて導入したプロポーザル(技術提案書)方式により実施された。 11社から出された提案書を審査した結果、最高得点を得た(株)山本設計と契約することに決定した。	
		日高中学校校舎建築工事	契約日 H22.10.22 契約額 70,980,000円 着手 H22.10.28 完了 H23.7.31 請負業者 ミタニ・シカタ特定建設工事共同企業体	A	村の大きな教育課題であった、日高中学校校舎・体育館の改築工事が着工された。 工事着工に至るまでには、紆余曲折もあったが、施設整備への保護者、地域住民の強い要望と議会等、関係機関の格別の尽力により、ようやく実現することができた。	
	学校給食の充実	学校給食共同調理場の運営	○年間給食数 ・日下小250円×37,673食=9,418,250円 ・能津小250円×4,959食=1,239,750円 ・日高中280円×20,633食=5,777,240円 ○学校給食運営委員会(4/27)	C	地産地消を可能な限り導入し、安全で充実した内容の学校給食の実施に努めた。 調理場の運営において、夏の猛暑による野菜価格の高騰などにより、給食会計の対応に苦慮した。 課題の施設改修については、平成24年度以降になる予定である。	
	地 域 教 育	ライフステージに応じた学習機会の提供	○加茂地区の2つの成人学級に対する学習活動支援。 月1回の学習活動と地域住民を巻き込んだ公園整備活動などを引き続き実施。	B	積極的に生涯学習活動を実施している加茂地区の成人学級等への人的支援を引き続き実施した。 加茂地区の学習活動は、地域おこし活動へも波及しており、こうした取り組みが村内全域に広がるよう、地域のニーズを掘り起こしながら、学習の機会を提供していきたい。	
生涯学習の推進		生涯学習フェスタの開催	○第1回生涯学習フェスタ開催 ・初めて企画する生涯学習の総合的なイベントとして、H.23.2.12～2.13の2日間の日程で、「生涯学習大会」、「総合美術展」、「文化祭」、「村民大学」を実施した。	A	総合的なイベントとして、生涯学習に関わる人々の交流の場や学びの場を併せて実施したことにより、広く村民に生涯学習の情報発信ができた。子どもたちのアンケートをもとに、村の将来を考えるパネルディスカッションも行われ、2日間で延べ1300人の参加があった。 アンケートの結果も好評で、毎年充実した内容を計画し、教育的な風土づくりにつながるイベントにしていきたい。	

項目		事業	事業の概要	評価	自己評価コメント	外部識者コメント	
地域教育	生涯学習の推進	学校支援地域本部事業	○地域全体で多様な形態での学校教育支援 ・学習支援(総合的な学習など) ・環境整備 ・学校行事支援 ・登下校の安全指導	B	地域コーディネーターによる連絡調整のもと、多くの地域住民が学校支援ボランティアに登録するとともに、環境整備や学習支援、安全確保など、様々な形で学校教育を支援した。学校支援がボランティアにとっての生きがいづくりにもなり、事業自体も徐々に定着してきた。	・住民と学校授業の意義ある接点として、実際に直接体験談を聞くことにより中身を知り、これをどう生かして身に付けていくことが大切なこととなる。 ・公民館活動は地域づくりとして期待されるものであるが、様々な社会環境の変化から少子高齢化等以前のような活動が困難となってきた。どうすれば地域の方々へ顔を向けてもらえるか、ニーズの掘起し等活性化に苦慮するところである。これに対する取組みが最大の課題である。	
	地域教育団体の育成	公民館・女性の会・青年団・高齢者学級の育成	○公民館活動 成人式(1/9)、生涯学習大会(2/13)運営補助 ○女性の会活動支援 ○高齢者学級 村外研修(9/17)など。	C	これまで村の地域教育を支えてきた各団体とも、会員減や活動の停滞化により、組織として十分な取り組みができない状況となっている。 組織の活性化を図るために、先進地の情報収集やマンパワーの養成に取り組まなければならない。	・日高村で生活しているとの意義をかみしめて、フィールドワーク等を通じ、地域をより深く知ることで人権の大切さを再認識してほしい。	
	人権教育の推進	人権教育推進講座の実施	○人権教育推進講座 (8/24,11/17)	○人権教育推進講座 (8/24,11/17)	B	例年同様、学校教職員及び村職員の中で、日高村への新任教職員及び新採職員を対象とした研修と位置付けて実施した。また、日高村内のフィールドワークについても、推進講座として位置付けて実施した。	・人権フェスタの準備はほんとうに大変だったと思うが大勢の人の参加を頂き大変喜ばしい成果が得られたと思う。人権に関する催しとして定着させてほしい。 ・多くの女性が社会のあらゆる場で活躍されている今日であるが、働く環境づくりとしてはまだまだ充分とはいえない。特に子育てという面においては、安心して子どもを育てられる不安のない状況づくりが重要である。社会情勢の好転を願う。
		じんけんフェスタの開催	○第62回人権週間記念行事 じんけんフェスタ「ひだか ライト de ナイト」 (12/19)。	○第62回人権週間記念行事 じんけんフェスタ「ひだか ライト de ナイト」 (12/19)。	B	じんけんフェスタとして3回目の開催となった。事業のテーマや会場の設定を新しい視点から企画することにより、子どもから高齢者まで幅広い世代から参加が得られた。こうした成果をもとに、開催の時期や内容について再度検証を重ね、村の人権に関する最大の催しとして定着させていきたい。	・放課後・週末活動支援については、更に活動内容等充実を図り継続されることを望む。なお、継続発展するには、現場の先生方との協議を十分深め、共通認識・納得の上での実施が欠かせない。
		男女共同参画プランの推進	○男女共同参画行事 男女共同参画行事として(12/19)に開催。	○男女共同参画行事 男女共同参画行事として(12/19)に開催。	C	男女共同参画プランを現状に合った内容に検討する中で、「楽しく」「笑顔で」をテーマに様々な人たちの写真を収集することとした。その写真を集めたものを来年度、冊子にまとめるように計画をしている。	・核家族、共働きが増えている社会情勢の中で、安心、安全な事業としてすっきり定着しており、今後増々の充実を望むものである。 ・夜間パトロール等補導員を中心として熱心、かつ地道な活動により、大変有り難い取組がなされている。青少年の健全な育成のために今後とも愛情、思いやりの心で接してほしい。
	青少年健全育成	放課後・週末活動支援	・くさか児童クラブ(月～土・長期休暇) ・日下放課後子ども教室(火～金・長期休暇) ・能津子放課後子ども教室(月～金・長期休暇) ・日高中学校放課後学習室(6～10月水、木、金 11～3月 月～金、長期休業中) ・週末(茶道・読み聞かせ・わのわキッズクラブ、朗読クラブ)	・くさか児童クラブ(月～土・長期休暇) ・日下放課後子ども教室(火～金・長期休暇) ・能津子放課後子ども教室(月～金・長期休暇) ・日高中学校放課後学習室(6～10月水、木、金 11～3月 月～金、長期休業中) ・週末(茶道・読み聞かせ・わのわキッズクラブ、朗読クラブ)	A	子どもたちの放課後、週末の安全・安心な居場所として、本事業はすっきり定着化してきた。特に、放課後子ども教室ではハード面を充実することができ、施設環境が整ってきた。 日高中学校の放課後学習室も事業が定着し、参加者が増加した。特に受験を控えた3年生にとっては、進路保障の面でも、一定の成果があったといえる。	・図書館は利用者も多くて、情報提供の場として子どもの居場所として、良い活動がされていると思う。広報等で様々な情報を村民に流されている努力は有り難いと感謝する。ただ、高齢者の方々への浸透が不足しているように見られ、今一つの工夫を願う。
		青少年補導育成活動	・街頭指導、巡回、青色回転灯による防犯パトロール等 早朝43回、午前152回、午後180回 夜間71回 合計454回 巡回等延べ人員581人	・街頭指導、巡回、青色回転灯による防犯パトロール等 早朝43回、午前152回、午後180回 夜間71回 合計454回 巡回等延べ人員581人	B	補導員を中心に、地域住民や警察署の協力により、夜間、早朝等の街頭指導を定期的に実施することができた。また、防犯教室や開かれた学校づくり推進委員会への協力、課題のある子どもたちへの下校指導など、学校と連携した取り組みも実施することができた。	・図書館活動の充実については、住民の教育と文化の発展に貢献している社会教育機関として、日頃の取り組みと努力に敬意を表するとともに、更に内容の充実・発展を期待する。
		図書館の整備	図書館活動の充実と情報提供	・登録者数大人252人 子ども236人 団体30(新たなシステムに投入) ・入館者数6,713人、利用者数3,585人 ・蔵書 一般書9,739冊、児童書12,713冊 ・読み聞かせ 毎月第1土曜日、第3水曜日	・登録者数大人252人 子ども236人 団体30(新たなシステムに投入) ・入館者数6,713人、利用者数3,585人 ・蔵書 一般書9,739冊、児童書12,713冊 ・読み聞かせ 毎月第1土曜日、第3水曜日	B	住民の交流の場所、子どもの居場所、子ども支援ボランティアの拠点として、充実した活動ができた。 「アットホーム」な運営は、利用者からも好評で、県立図書館からすぐれた運営と評価されている。また、県内の図書館専門のアンケートでも「県下で行ってみたい図書館」の上位に入っているという状況である。

項目		事業	事業の概要	評価	自己評価コメント	外部識者コメント
地域スポーツの 振興		総合型スポーツクラブ 設立への基盤整備	○各種教室の開催 村民へのアンケート調査を実施し、各種 教室を開催。 ○啓発事業の取り組み 啓発フォーラムを村民運動会と同時開催	B	各種運動教室を定期的で開催するとともに、アンケートなどで村民のニーズなどを調査してきた。また、啓発フォーラムを開催し、スポーツクラブのPRを行って2月18日に設立総会を開催した。今後は、先進地クラブとの交流などを積極的に進めるとともに、NPO法人を取得し組織拡充に努めたい。	<ul style="list-style-type: none"> 村をあげてスポーツに取組み、体験を通して身体の健全育成に寄与することは最も大事なことであるが、スポーツ人口減少が見える今日、これに目を向けさせる指導者の発掘、育成が重要である。創意、工夫をして関心を高めさせることを願う。 総合型地域スポーツクラブについては、先ず地域住民にどういった内容のものであるかを理解してもらい、障害者や子どもからお年寄りまで誰でもが自由に多くの方に参加してもらうことなど、いろんな面で課題や問題点は多くあると思う。特に財政面や多様な種目の指導者の確保等、難題が多いと思うが是非とも克服され、村民の皆さんが健康で明るく、元気に、楽しんで集えるスポーツクラブが設立されることを期待する。 村民運動会については様々な工夫をされており、関係者には敬意を払うところである。 茂平マラソンは日高村の名を高める独自性をもった大イベントとして今後増々の発展を期待する。
		村民運動会・茂平マラ ソンの開催	○村民運動会 総合型スポーツクラブ啓発フォーラムとコラボ (競技内容を一新)。 ○ひだか茂平マラソン2010(11/28) 申込者:1,205名、大会ボランティア:280名	A	恒例の村民運動会は昨年同様、総合型スポーツクラブ啓発フォーラムとのコラボとして同時に開催した。競技内容など、まだまだ改良の余地はある。ひだか茂平マラソンは、大会参加者が1,000名を超える大きな大会だった。今後は、イベント内容も含め、より独自性のある個性的な大会としていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> 茂平マラソンは、大きな大会となり、主催者としては何かと大変だと思うが、日高村独自の特色あるものにし、更なる発展を期待している。
		各種スポーツ教室の開催	○総合型スポーツクラブへつなげるための スポーツ教室の開催 様々な体験教室を開催し、スポーツクラブへの参加促進	B	スポーツ体験教室を開催し、スポーツクラブへの導入を目的に、多くの村民に体験してもらう事ができた。特に、出張体験教室として、いろいろな場所や集まりに出張して体験教室を開催し、普段することのない方にも体験してもらうことができた。	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ教室を体験してもらうことで、普段できないスポーツに接し、交流をもてることに意義がある。
		施設の整備と活用	○日高村総合運動公園管理運営 シルバー人材センターへ管理委託 利用者数:約18,000名 使用料金合計:3,152,800円	B	総合型地域スポーツクラブ設立に向けて、地域スポーツの拠点として総合運動公園を位置付けるために、施設の利用者増を図る取り組みをおこなった。 野球場については、日高中学校改築に伴い、日高中学校の部活動に開放した。	<ul style="list-style-type: none"> 運動公園というりっぱな施設があるので、大いに活用すべきであるが、多目的広場の芝等、維持管理面で非常に難しく技術を要することもあり、施設の利用者にはこの面への配慮を願いたい。
芸術・文化活動 の振興		伝承文化・天然記念物 ・文化財の保護	<ul style="list-style-type: none"> 第1回高岡地区研修会(6/16) 第2回高岡地区研修会(10/25) 第3回高岡地区研修会(2/25) 日高村文化財巡視(11月、3月) 日高村文化財展示(11/15) 	B	国宝小村神社環頭大刀や金明孟宗竹等の重要文化財や天然記念物については、定期的な巡視活動を実施するとともに、文化財保護審議会委員の指導、助言のもと、適切な保護・保存に努めた。 また、審議会委員は研修会にも積極的に参加し、文化財保護についての見識を深めることができた。	<ul style="list-style-type: none"> 村の文化財を保護することは重要なことであり、貴重な財産を後世に継承していかなくてはならない。新たな発掘にも積極的に取り組んでもらいたい。 少子高齢化によって伝承文化・民俗芸能や文化財を保存・継承することが難しい世の中になってきているが、日高村では、文化財保護審議会委員が中心となって研修を深められ、文化財保護に努められていることはすばらしい。
		文化推進協議会の育成	<ul style="list-style-type: none"> 日高村文化推進協議会総会(6/21) 高岡地区文化協会総会(6/29) 「生涯学習フェスタ」(2/12～13) 第16回日高村文化祭 第40回日高村総合美術展 	B	文化推進協議会が主催する文化祭と総合美術展を「第1回生涯学習フェスタ」の中で同時に開催した。 文化祭は冬期開催となったが、例年同様多くの文化サークルの発表と入場者があった。また、総合美術展は初めて保健センターが会場となり、展示空間は小さくはなったが、他のイベントとの同時開催の効果もあり、例年以上の入場者があった。	<ul style="list-style-type: none"> 一度中断すると復活させるのは極めて難しいので、大事なものは保存・継承していくという相当の工夫や検討施策が必要ではないかと思う。 生涯学習フェスタの中で文化祭と総合美術展を催すことは大変意義深いものがあった。今後も生涯学習フェスタのなかで重要な位置づけとなるよう、場所等も考慮しながら、増々の充実、発展を期待する。